

だんないの道

第28号

2016年12月28日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・P1 生きたい・・・・・・・・・・・・・・・・P2
やりがいを感じられるだんないに変える！・・・P3 来年の目標・・・・・・・・・・・・・・・・P3
活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・P4 コラム ヨリの雑記帳・・・・・・・・・・・・・・・・P7

代表あいさつ

柿が豊作。カメムシ大量発生。ユズもよく生(な)っていた…と、大雪の条件とされる言い伝えがほとんど当てはまっている状況です。その言い伝えには半信半疑のところもありますが、だんないでは大雪の脅威に今からおびえています。ただ、昨シーズンのように「降る、降る」と言われても、ほとんど降らなかったケースもあるので、そうなることを切に願いながら年明けの準備をしています。

この秋はイベントがたくさんありました。一番は、なんと言っても「だんないまつり」です。今年で3回目。「だんないは今日も雨だった…」と、私の開会あいさつにジョークで使うほど立派な雨が降りました。「だんないは天気にも恵まれんなー」とか「日ごろの行いが悪いでやろー」とか、あげくの果てには「雨男のよりさんが、どっかに行けばいいんや。」などマヤカシのような言葉が飛び出したりしました。僧侶の私としては…(笑)

そんなやりとりをしながらも、祭り自体は、とても楽しい時間となりました。オープニングを楽器演奏で盛り上げてくれた「Dドラファミリー」さん、急な会場変更に対応し、フラダンスでアロハな雰囲気をつくさんの応援団と醸(かも)し出してくれた「ティアレ」さん、3回連続の出演で、しみじみと落ち着いた雰囲気に染めてくれた琴演奏「メイプル」さんらのパフォーマンスによって、大盛況となりました。ご参加いただいた方々には、改めて感謝申し上げます。

12月4日は、高島市で「障害者差別禁止条例をつくろう集会」を開催しました。アクセスが良いとはいえない場所で開催したのにもかかわらず、10名以上の方が参加してくださいました。当初は正直を言えば、外部参加者3~4名プラスいつものメンバーで開催することになるだろうと思っていたので、うれしい誤算となりました。それだけ条例への期待が強いということでしょう。

ただ、1つ残念だったのは、事例集めの際に言語障害がある方への事例聞き取りがうまくいかなかったことです。付き添いの方はおられたのですが、残念ながら十分に聞き取っておられる様子は見受けられませんでした。思い通りに事例を出せなかったのは、かなりのストレスだったはずですが、今後の課題として、重度の言語障害がある方に対する時間延長や聞き取りサポートといった合理的配慮だと思えます。この反省点を次回以降の取組みに活かし、より有意義な事例集めを実施したいです。

さて、年明けまで残すところ、あとわずかとなりました。今年は、「条例づくり」と「地域とのつながり」を重視して取り組みました。来年は、これに加え、「自立生活への志」を活動テーマに置き、「自立できないセンター」を汚名返上したいです。

この1年を振り返ると、悲しい事件が起きたり、差別解消法施行後もなお悔しい思いをしたりと、自分らしく暮らしやすい状況とは決して言えません。それでも、当事者一人ひとりが「自分らしく生きよう。」と思える地域を目指し、活動を続けたいです。今年も温かいご支援をありがとうございました。2017年も、ご支援のほど、よろしくお祈りいたします。

美濃部 裕道

生きたい。

谷口健人

最近、いくつかの研修の機会がありました。その中の一つに、ある市に対して障害当事者団体が集団で行政交渉する場を傍聴するというものがありました。たくさんの障害当事者が市の担当者に向かい合い、自分のこととして真剣に議論を交わし合う姿は、言葉にできないほどの迫力がありました。

とくに議論が熱を帯びたのは、学校給食における二次調理の給食室での提供拒否問題についてでした。嚙んだり飲み込むのが難しい障害特性の人や、胃ろう（経管栄養）を使用する人には、食材を刻んだり、ミキサーにかけたり、トロミをつけたりといった二次調理が必要です。

現在、その市では給食で二次調理が提供されない小学校があり、二次調理食が必要な児童の親が毎日学校に行って二次調理をしていたり、親が行けない時は、あらかじめお弁当のようにして持たせているという現状があるとのことでした。

交渉団はこの現状を改善し、給食は当たり前前の権利であり、教育の一環でもあるのだから、権利保障としてきちんと学校・教育委員会側で二次調理を提供せよと要求していました。それに対して市は「給食調理完了後の限られた時間内にフードプロセッサーやブレンダーなどで加工するという作業を給食室内で行うことは、作業時間及び作業工程上困難です。」と回答していました。さらに市の担当者は「多くの児童生徒に安全・安心の学校給食を保障するためには…」と言いかけてました。

この発言にみんながめっちゃくちゃ怒りました。「“多くの”とはなんや！“すべての”やろが！」と。「重度障害者を排除するのか！」と。みんなの怒りは、二次調理が提供されないという事実に対してはもちろんだけれど、たぶんそれ以上に「自分たち障害者が地域から、学校給食というごく当たり前で基礎的で重要な場面から排除される」ということに対してのものだったと思います。

そして、そのことに対して市がどういう回答をするのかということは、重度障害者が地域で生活するということ、市としてどのように考えるのか。相模原事件のあとで、どのようなメッセージを発するのか。つまり、事件の容疑者が言うような「役に立たない障害者なんていなくなればいい」という思想を肯定し、障害者を排除する社会を続けるのか。そこから脱して、誰も排除しない共生社会へと向かうのかという、とても重大な分かれ目です。だからみんな必死で、自分自身のこととして怒ったのだと思います。叫んだのだと思います。市は最終的に、回答を見直すとしましたが、先行きが不透明なままその日は終わりました。

あらためて今年一年を振り返ってみると、やはり相模原事件は大きな衝撃でした。「衝撃」と言ってしまうと何かとても刹那（せつな）的な感じがして、正確な表現ではないように思うのですが、事件の前と後とで、何かが決定的に変わってしまったような感じさえある、大きな事件だったと思います。僕はこの事件の後、初めて「本当に、自分は殺されるのかもしれないな。」ということを考えました。電車に乗っていて、突然刺されたりするかも知れないと恐怖しました。

今、思うことは、「でも、それでも、何があっても自分は生きたいんだ！」ということです。ありきたりかもしれないけど、でもありきたりにならざるを得ないと思います。人間だから、生きたいのです。死にたくないのです。殺されたくないのです。だから、殺さないでください。役に立つとか、立たないとかで命の生き死にが決められたり、排除されたり、勝ち組とか負け組とか…そんなの苦しいだけです。そんなことにとらわれなくてもいい社会を、みんなが人として当たり前前に生きていける社会を目指し続けます。

わたしは生きる。だから殺すな！

やりがいを感じられるだんないに変える！

小里 和也

今年もだんないの1年を振り返ると、様々なことがありました。その中で、僕にとって大きく変わったことがあります。それは、以前は参加出来なかった、泊まりが必要な研修に参加出来たことです。そのおかげで、東京であった「出生前診断の集会」と神戸であった「障害当事者バリアフリーリーダー育成研修」などに参加しました。

こうやって県外の研修に行けたのは、以前のだんないの道で紹介した、だんないの事務所で週1回程度の自立生活体験をしていたことです。最初は、すごく不安で自信がなかったけど、何回も体験していると介助方法を分かってきて少しずつ自信がついていきました。

また、この間兵庫県西宮にある「メインストリーム協会」に訪問させていただきました。そこでは、同じ障害の呼吸器をつけた先輩の方が、実際に1人暮らしをされているマンションに入浴方法を勉強させていただきました。勉強させていただいて僕が感じたことは、様々な工夫と当事者と介助者とのコミュニケーション。介助者と介助者とのコミュニケーションがしっかり取りながら介助されているのが印象に残りました。また、慣れていない介助者の方には入浴ヘルプの実技研修を何回もされているそうです。その他にも、自立生活の大切さ楽しさと、自立生活をする時の工夫やアドバイスをたくさんいただきすごく自分自身刺激を受けました。

このようなことを経験して、来年の目標が固まりました。

だんない事務所で何回も自立生活体験をしていて、今年中にアパートを借りてだんない事務所ではなく、自分の部屋で自立生活することを目標にしていたのですが、全く出来ませんでした。反省です。

その反省を悔しさに変えて来年は、アパートを借りて、周りに「自分は自立生活をしたい」「この時間の介助が必要なのです」と伝えていきます。そして、「自立できないセンター」と言われているだんないを「自分が自立をすることで、自立できないセンターを変えていくんだ！」という気持ちと、「このだんないの地域で活動、自立をする！」という志をもって、当事者と介助者がやりがいと楽しさを感じられるだんないにしていきます！

来年の目標

大橋 早香

今年は、大学へ進学し、大学に入学したばかりで「まだ1年生」という感覚が抜けていません。しかし、私は短大生なので「もう1年生も終わりだ。来年からは就活生だ」という気持ちが強くなってきています。そして、来年の目標は、「就活を頑張る」です。(ありきたりですがw) 私は、高校2年生の春からだんないで活動してきました。色々な研修に参加し、自分が知らなかったことを知ることができたり、新たなことをたくさん学ぶ事ができました。色々な研修に参加し、教育現場や公共交通の場にある課題や問題を知り、「自分も、今の社会を変えていきたい。もっと色々な事を知りたい。だんないでの活動にもっと力を注ぎたい。」そう思うことが多々ありました。けれど、一方で、「大学から、いきなりCIL(だんない)で活動するのではなく、1度、一般企業で働くことで、視野が広げられるのではないか？」と考えることもしばしばありました。

そのような事から、来年は、就活生として事務職を目指して就活を頑張りたいです。事務職で働き、色々な経験をした上で改めて、だんないでの活動について考えたいです。

また、電車通学をする中で、近江鉄道やJRの駅員の対応で違和感を覚える事があるので、自分なりに声をあげていきたいです。

活動報告

日付	内容	参加者
10月11日	JIL 関西合宿 in 舞洲(1日目)	美濃部 頼尊 小里 谷口
12日	JIL 関西合宿 in 舞洲(2日目)	頼尊 小里
	ポジティブキャンプ実行委員会	頼尊
13日	北部地域総合体育館ワークショップ	美濃部
14日	やまぶき作業所ピアカウンセリング	美濃部 小里
17日	障大連ホットライン	頼尊
	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	美濃部
	企画会議	
18日	JCIL 来所	
20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 全体会議	美濃部
	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 県条例検討プロジェクト	美濃部
22日	湖北地域 福祉の職場説明会	美濃部
	学校は地域のこども支援活動とどうつながるか in 大阪	頼尊
23日	発達障害と薬の使い方を考える in 愛知	頼尊
	ぼてとファーム収穫祭	美濃部 谷口 大橋
	難病コミュニケーションシンポジウム in 名古屋	小里 高島
24日	ピアカウンセリング委員会 in かぼちゃ	美濃部 小里
	バリアフリー調査研修	
25日	湖南省差別解消法イベント打ち合わせ	谷口
	法人税説明会	頼尊
27日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
28日	ヤング委員会 in 夢宙	小里
29日	「障害」のある生徒の高校進学を考える学習会 in 大阪	頼尊
30日	京橋駅エレベーター訴訟を支援する集会 in 大阪	頼尊
11月2日	湖北タウンホーム打ち合わせ	美濃部
3日	第3回だんない祭り	
5日	共に生きよう堂々と生きよう in 草津	美濃部 小里 谷口 大橋
6日	滋賀ボッチャチャンピオンシップ 2016	美濃部 小里 大橋
8日	湖北会打ち合わせ	美濃部
	愛光園ピアカウンセリング打ち合わせ	小里
	枚方市事業者協議会打ち合わせ	頼尊
9日	米原市女性の会 高居さん来所	
10日	ピラ配り(パワーズ高月店)	小里 谷口
11日	医療観察法の現状と問題点 in 大阪	頼尊
	京橋駅訴訟	頼尊
	障大連学習会	
	障大連学習会	頼尊

12日	ながようまつり	大橋
	今こそオンブズパーソン制度を！in 大阪	頼尊
14日	長浜市成年後見センター運営委員会	美濃部
15日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 in タウンホーム	美濃部 谷口
	北部地域総合体育館ワークショップ	美濃部
15日～16日	バリアフリー障害当事者リーダー養成研修	小里
16日	湖北会研修会	美濃部
17日	長浜米原自立支援協議会事務局会議 in 長浜市役所	美濃部
	バリアフリー調査 in 余呉	小里 谷口
18日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	美濃部
19日	ぼてとファーム役員会	美濃部
	彦根 ILP 会議	小里
	「意思決定支援」と「権利擁護制度」の今後を考える in 大阪	谷口
21日	滋賀県障害者差別解消支援地域協議会 in 県庁	美濃部
22日	米原新庁舎について語り合う会	美濃部
	BCP 研究会 in 大阪	頼尊
	長浜養護学校打ち合わせ	美濃部
23日	ポジティブキャンプ in 長居	美濃部 頼尊 小里 谷口 大橋
24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 県条例検討プロジェクト	美濃部
26日	タウンミーティング in 三重	頼尊
27日	インクルーシブ教育と差別解消法 in 大阪	頼尊
28日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
29日	ピアカウンセリング委員会 in かぼちゃ	美濃部 小里
	医療制度改革学習会 in 大阪	頼尊
30日	北部地域総合体育館ワークショップ市長提言	美濃部
12月3日	障害者差別解消法とインクルーシブ教育 in 名古屋	頼尊
4日	滋賀に障害者差別禁止条例をつくらう！In 湖西	美濃部 頼尊 小里 谷口 大橋
5日	長浜東中学校校講演	美濃部
	バリアフリー調査	小里 谷口
	人権学習会～カルト問題に学ぶ～in 大阪	頼尊
6日	生協打ち合わせ	美濃部
	琵琶湖博物館ユニバーサルデザイン評価	美濃部
7日	長浜市高月中学校講演	美濃部
8日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	美濃部
	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 県条例検討プロジェクト	美濃部
9日	2016 対大阪市オールラウンド交渉傍聴	谷口

9日～11日	DPI 政策討論集会 in 東京	頼尊
10日	学びをひろげるわたしと〇人の会研究会 in 大阪	小里
11日	大阪障害者自立セミナー	谷口
	子どもの権利条約フォーラム in 大阪	小里
13日	職員研修	
	企画会議	
14日～15日	メインストリーム協会訪問	頼尊 小里
15日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相模原事件を受けての宣言文作り	美濃部
	大阪障害フォーラム緊急集会	小里
16日	権利擁護と成年後見制度 in 湖北社協	美濃部 小里 谷口
	チラシ配り	小里 谷口
17日	「風は生きよという」とトーク in 大阪	谷口
	生活書院記念パーティー	頼尊
18日	ときめきパーティー	
19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
19日～21日	JIL 全国セミナー	頼尊
20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会全体会	美濃部 小里 谷口
21日	湖南市差別解消法イベント打ち合わせ	谷口
22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 全体会議	美濃部 市川
	代理投票訴訟会議 in 大阪	頼尊
23日	だんない交流会	
26日	忘年会&生誕祭	

コラム

ヨリの雑記帳 (27)

頼尊恒信

今回「も」、発行 12 時間前になって、ようやくキーボード入力を始めようとするボクがいる。何時になっても、「早く、しかも書きためておく」ということを勉強しないボク。年末の事務作業を終わらせたところなので、ちょっと気が緩んでいるが……。ボツボツとタイピングしていこうと思っている。

「だんない」といえば、自立生活のセンターであり、運動体である。このことは、「だんないの道」を読んでくださっている皆さんなら、あえて説明する必要はないと思う。ただ、某キャプテンの言葉をさらに引用するならば、「自立できないセンター」という汚名があるらしい。

自立の概念。つまり、自立とは何か、どういうことを指し示すのかということを考えて、考えれば考えるほど、難しい概念である。巷（ちまた）では、「新しい自立の概念」（このことを詳しく言うと、かなりアタマがパニックになるので、今回は、言葉だけでとどめたい。）という言葉が、最近のトピックになっているらしい。かといって、「新しい」に対応する「古典的な…」といっても、かなり幅のある議論でもあるように理解している。ここでは、古典的な自立生活の思想を、ボクがどのように了解しているかをちょっと書いてみたいと思う。

ここからは、かなり乱暴な筆遣いになるが、自立生活というと「親元や、病院・施設から出て、1 人暮らしを行うこと」と概略することが出来るであろう。もっと厳密に表現するならば、1 人暮らしを「行おうとすること」ではなく、「行うこと」であるといえる。この「行おうとすること」と「行うこと」との間は、連続体のように考えられるが、実はそれは連続体ではないとボクは考える。つまり、自立生活をする「前」と「後」に大きな隔絶があると感じられる。何故かという、特に病院や施設から出るという行為を考えると、隔離状態の中か、社会的生活中中といった、全く異なった 2 つの世界があると感じるからである。その間の世界は、「連続体」であってはいけないのである。隔離的（エクスクルーシブ）な世界から、人間として本来あるべき社会である共生的（インクルーシブ）な世界へと帰っていく行為であるといえる。この行為は、見方によっては「帰ってくる」という表現も可能であると考えられるかもしれない。だが、やはり「帰っていく」という言葉がボクの中ではしっくりとくる。何故か。それは、「帰っていく」という主体的な行為にこそ、自立生活への「志ざし」と「願い」があふれているからである。

この「帰っていく」という主体的な営みがなければ、自立生活の根本的な概念は崩壊していくと思う。「帰るべくインクルーシブな世界」という世界観が自分の中で見えなくなったとき、自立の意味が、見えなくなり、「志ざし」と「願い」が失われていくのであろう。

自立できないセンター。その言葉の奥に何があるのだろうか。表面的には、自立するということは、「自立前」というエクスクルーシブな状態から、「自立後」というインクルーシブな状態へ帰っていこうとする行為であるといえる。「自立できないセンター」とは、そのような自立への行為を行うことが出来ないセンターと言えよう。

ただ、それで終わりなのかと自問自答すると、その問いの答えは別の場所にあるといえる。つまり、「自立できない」というところに、自立前から自立後へという断絶を超えようとする「志ざし」と「願い」が失われている現状があると考えるのである。つまり、具体的には「帰るべくインクルーシブな世界観」そのものが失われている自分自身のあり方があるのではないか。そこにこそ、「自立できない」という現状の大問題が存在するのである。

このように考えている間に、後ろの円卓では、おいしそうな夕食の香りがしてきた。自立生活については、まだまだ考えなければならぬところがあると考えているが、おいしそうな夕食の香りには勝てない。そろそろ、筆を置くとするか！

(よりたか つねのぶ)



NPO 法人CIL だんない

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

URL : www.ab.auone-net.jp/~dannai

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店
加入者名 : NPO 法人CIL だんない

〒529-0423

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

TEL : 0749-50-3639

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

00940-2-209115